

指宿市考古博物館
時遊館 **CoCCo** はしむれ

平成25・26年度
博物館年報・紀要
第11号

平成27年3月
指宿市教育委員会

事業報告編

平成 25 年度各事業の実施状況

1	博物館事業の部	1
2	後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	6
3	発掘調査・整理作業の部	7
4	文化財保護管理の部	8
5	刊行物・研究活動の部	8

平成 26 年度各事業の実施状況

1	博物館事業の部	11
2	後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	16
3	発掘調査・整理作業の部	17
4	文化財保護管理の部	17
5	刊行物・研究活動の部	18

紀要編

指宿市山川町区・福元区所在の石敢當悉皆調査	社会教育課文化係	22
宮之前遺跡出土の甗形土器	松崎大嗣	27

平成 25 年度各事業の実施状況

平成 25 年度に実施した主な事業は、次のとおりである。以下、その概要を記す。

1 博物館事業の部

(1) ゴールデンウィークイベント (4月27日～5月6日 体験者 842人)

昔の遊び体験として、けん玉・ピー玉・おはじき・あやとり・めんこ・竹とんぼ等の体験を実施した。体験学習として、勾玉作り・あんぎん編み・オリビン万華鏡作り・キーホルダー作りなどを実施した。

(2) 学びのふるさと講座 (全5回、聴講者数 226人)

郷土の歴史・自然・考古学・民俗について全5回の講座を開催した。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	5月18日	濱崎太平次について	原口 泉 (鹿児島県立図書館 館長)	53
2	7月20日	橋牟礼川遺跡の縄文土器について	岩永 勇亮 (県埋蔵文化財センター)	30
3	9月14日	開聞岳の噴火について	大木 公彦 (鹿児島大学総合博物館)	53
4	11月30日	世紀の彗星の魅力について	前田 利久 (県天文協会 会長)	35
5	1月18日	小野民俗学と『薩南民俗』から見た指宿の民俗	川野 和昭 (南方民俗文化研究所 主宰)	55

(3) はしむれ日曜講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、歴史講座を開催した。

	開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
1	12月22日	指宿の民俗①	小野重郎氏の指宿における民俗研究成果を紹介	鎌田洋昭	21
2	2月9日	指宿の民俗②	指宿の伝統行事を紹介	渡部徹也	38

(4) ミニ企画展「いぶすきシェルコレ2013」(入場者：2,528人)

◆展示内容

指宿で採集された貝、鹿児島湾で採集された貝、志布志湾で採集された貝、奄美大島・沖永良部島で採集された貝、908種 1200点の標本を展示した。指宿市内での貝殻の採集ポイントを紹介した。

併せて、平成 25 年度は「いぶすきの海の神様とのぞく、身近な貝のふしぎ～」をテーマとし、平成 24 年度に指宿まるごと博物館構想推進事業で作成した紙芝居「指宿の昔話」の中から「いぶすき竜宮伝説」のパネル展示を行った。

◆体験学習

貝殻細工体験「エコ貝殻風鈴づくり」8月4日(日) 体験者：定員20人

(5) ミニ企画展「絵はがきでたどる桜島大正噴火」12月14日～2月16日 入場者 2,363人

平成26年1月12日、桜島の大正噴火から100年を迎える。これに関連して、平成23年度実施の企画展『新聞でたどる近代史—黒船来航からアポロまで』で新聞資料を提供いただいた大武進氏から、桜島噴火に関連する絵葉書約170点を借用し、大正噴火の様子と災害からの復興、桜島を観光に活用するまでを紹介した。併せて、指宿市内で桜島大正噴火についての記録がある文書（天災事変人事記録帳面）や桜島の噴出物サンプルなどを展示した。

(6) スターウォッチング（全5回、参加者計246人）

期日	星座や星の観察内容	講師	参加者
5/25（土）	パンスターズ彗星と春の星座をみよう	当館学芸員	86
8/12（月）	夏の星座とペルセウス座流星群をみよう！	当館学芸員	55
9/19（木）	中秋の名月をみよう！	当館学芸員	10
11/29（金）	夜明け前にアイソン彗星をみよう！	前田利久氏 (県天文協会)	50
2/15（土）	冬の星座・木星・星のぼくはつのとを見てみよう！	森永成一氏 (開聞中教諭)	45

(7) 百武裕司氏と百武彗星パネル展（10月12日～12月15日 見学者3,021人）

百武彗星をはじめ、多くの彗星を発見した百武裕司氏ゆかりの品々（百武裕司氏の写真や、新天体発見に関する鹿児島県民栄誉賞等）とハールポップ彗星等の写真パネルを展示した。せんだ宇宙館が主催した巡回展である。

(8) 第24回いぶすきシルバー美術展（8月11日～8月25日 入場者1,655人）

鹿児島県内在住の60歳以上の方から絵画作品を公募し、一同に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成2年度から開催しており、平成25年度で24回を迎えた。出展者数139人、177点の作品を展示した。

(9) 学習支援活動

来館者に対する学習支援の他、博物館実習生や職場体験学習の受け入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施した。

・パワーアップ研修

平成25年度は1名の受け入れを行った。期間は8月7日（水）～9日（金）であり、実習として、開聞岳の噴火によって埋没した数領遺跡の発掘体験をしてもらった。

平成25年度

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習(記載のない団体は見学のみ)
1	4	30	火	川尻小学校	9	
2	5	2	木	向陽小学校	72	消しゴム勾玉
3		10	金	柳田小学校 6年生	61	
4		16	木	倉岡小学校	41	消しゴム勾玉
5		17	金	菓子野小学校	18	

6				東中学校	25	オリピン万華鏡
7				知覧小学校 1・2年生	93	消しゴム勾玉
8		21	火	八幡・神山連合小学校	33	石勾玉
9		22	水	笠利地区合同小学校 (屋仁・宇宿・緑が丘・佐仁・手花部)	34	
10		23	木	西小学校	141	
11		29	水	3校合同小学校(星原・納官・岩岡)	28	石勾玉
12				鹿児島育英館中学校 1・2・3年生	100	
13		30	木	内之浦小学校	25	
14		31	金	五十市小学校	109	
15	6	3	月	永化女子商業高等学校(指商)	10	
16		11	火	青戸小学校	13	
17		19	水	丹波小学校 4年生	6	夢さがしの旅(職場体験)
18	7	25	木	万世中学校	8	
19	9	5	木	筑山中学校	51	石勾玉、オリピン万華鏡
20				御陵中学校	84	絵付け(カップ)
21		6	金	春日野中学校	79	消しゴム勾玉、オリピン採集
22		11	水	筑紫野南中学校	13	オリピン万華鏡
23		12	木	大利中学校	67	オリピン採集
24		17	火	那珂川北中学校	35	絵付け(皿)
25		21	土	那珂川中学校	74	石勾玉
26		26	木	那珂川南中学校	39	絵付け(カップ)
27				春日東中学校	46	石勾玉、オリピン万華鏡
28	10	4	金	知覧小学校 5年生	36	
29		17	木	上長飯小学校	141	消しゴム勾玉
30		18	金	柳田小学校 2年生	61	石勾玉
31		23	水	国見小学校	19	石勾玉
32		25	金	修学館中等部 1・2・3年生	228	石勾玉
33	11	7	木	今町小学校	15	石勾玉
34		8	金	丸野小学校	20	消しゴム勾玉
35		20	水	香月小学校	68	石勾玉
36		21	木	春日中学校	60	オリピン万華鏡
37	12	5	木	三校合同小学校(長田・梶山・宮村)	32	消しゴム勾玉
38	1	21	火	指宿高等学校	46	
39		30	木	指宿小学校 3年生	50	昔の道具
40	3	6	木	玉龍中学校	19	石勾玉、キーホルダー、あんざん編み、オリピン採集

41		7	金	玉龍中学校	35	石勾玉、あんざん編み、オリビン採集
----	--	---	---	-------	----	-------------------

出前授業・出前体験学習、職場体験学習

	月	日	曜日	学校名	人数	内容
1	5	10	金	池田小学校 5・6年生	14	石勾玉
2	6	15	土	小川子ども会	52	消しゴム勾玉
3		18 19	火 水	西指宿中学校 1・2・3年生	50	
4	8	8	木	魚見校区公民館講座	34	キーホルダー
5		20	火	川尻マンゴーくらぶ	15	オリビン万華鏡
6	9	26	木	今和泉小学校	12	
7	11	8	金	川尻小学校	9	理科の授業
8		14	木	柳田小学校		
9	12	2 3	月 火	柳田小学校		史跡めぐり
10		5	木	元気塾	21	火おこし、星空観察
11	1	30	木	鱧地区（高齢者）		地区の歴史や文化について
12	2	6	木	柳田小学校3年生	72	昔の道具について
13		14	金	ほほえみ会（高齢者）	30	オリビン万華鏡
14		19	水	ふれあいミニサロン ※ 利永交流センター	22	あんざん編み
15		24	月	いきいきサロン（高齢者）	17	オリビン万華鏡
16		25	火	上野地区（高齢者）		地区の歴史や文化について
17		25	火			枚聞神社周辺文化財案内
18	3	8	土	ジュニアリーダー研修会	16	オリビン万華鏡
19		12	水	ふれあいミニサロン ※ 中福良	8	あんざん編み
20		12	水	ふれあいミニサロン ※ 田之畑営農センター	18	あんざん編み

(10) 夏休みイベント「古代にチャレンジ！土器をつくろう」

①土器作り体験：8月17日 ②土器焼き体験：8月27日 ③土器取り出し：8月18日 参加者 61人

児童・生徒を対象とした夏休みイベントを開催した。今回のイベントは、まず博物館に展示している本物の縄文土器や古墳時代の成川式土器について、学芸員から説明を受けたり、実際に触ったりした後、指宿の山から採集した粘土を使い土器作りを行った。さらに、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の史跡公園内にある土器焼き体験広場を活用して、土器焼き体験を行い、土器作りの全ての工程が体験できるようにした。

また、児童・生徒が夏休みの自由研究・自由工作として学校へ提出できるようにワークシートを作成し、土器を観察した結果

などをまとめられるようにした。

(11) 企画展「指宿まるごと博物館Ⅴ 小野民俗学と『薩南民俗』からみた指宿の民俗」

(平成25年12月7日～平成26年2月16日 入場者数：1,181人)

指宿地方における民俗研究は、戦後間もない頃、国分直一氏の指導のもと「指宿高等学校郷土研究部」と、その機関紙『薩南民俗』の発刊によって拓かれた。国分氏の転出後、民俗学の研究の中心は小野重朗氏が引き継いだ。小野氏は指宿地方の氏神やモイドン、十五夜行事について精力的に研究していった。「小野民俗学」として『薩南民俗』は、まさにその出発点と位置づけることが可能であり、それらの研究は柳田國男氏によって高く評価されている。

企画展では、小野重朗氏の民俗学を追及しながら、残された遺品及び調査原票等の研究資料を展示するとともに、小野氏の研究の出発点となった指宿地方の民俗について紹介した。

◆展示構成

- 第1章 小野重朗と『薩南民俗』
- 第2章 小野重朗がみた指宿の春夏秋冬
- 第3章 小野重朗のみた指宿のこころ
- 第4章 海にまつわる伝統文化
- 第5章 海がつかない郷土芸能

(12) 指宿まるごと博物館構想推進事業

ミュージアム活性化支援事業の補助を受け、当館を含む実行委員会で下記のソフト事業を実施した。

① 地域と協働した指宿まるごと博物館構想推進事業

- i 校区まるごと博物館構想推進モデル事業(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿校区自治公民館連絡協議会)

◆実施概要

地域の活性化を目的に、指宿校区自治公民館連絡協議会、北指宿中学校、指宿小学校、地域住民が連携し開催している指宿校区秋祭りの中で、展示ブースを設け、校区の歴史・文化を紹介するパネル展を行った。

- ii 指宿まるごと観光ガイド会活性化事業(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿市観光協会)

◆事業概要

指宿市には、篤姫観光ボランティアガイド会、いっど・いっかが山川まち歩き会、瀨崎太平次ガイド会、池田湖ガイド会、開闢伝え歩き会、二月田ガイド会、隠地区ガイド会、宮ヶ浜まち歩きガイド会、指宿ジオガイド会の9つのガイド会がある。本事業では、各ガイド会に呼びかけ、市全体を案内できる指宿まるごと観光ガイドの育成支援と資質向上を目的に市外の先進地視察研修を行った。

また、山川港まち歩きを紹介したチラシを作成、市内の観光施設、公共施設に設置したほか、観光キャンペーン時に東京、名古屋、大阪、広島等の旅行代理店、鹿児島県事務所等に持参・配布し周知を行った。

- iii 指宿まるごと博物館海外情報発信事業(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会)

◆事業概要

平成24年度ミュージアム活性化支援事業で作成した指宿まるごと博物館ガイドブックをベースに、観光課、指宿市観光協会、本市国際交流員(市民ボランティア)等と連携しながら、英語・中国語(繁体・簡体)・韓国語で、指宿の歴史・文化・自然・産業等の地域資源を紹介する解説案内ウェブサイトを作成した。

- iv ふるさとの伝承・昔話の教材化事業(実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿市立図書館)

◆実施概要

指宿市立図書館と連携し、市域に残る歴史遺産等まつわる伝承や昔話の中から3話を選定し、紙芝居及びDVD（紙芝居の画像に音声・音楽を加えアニメーション化）を作製した。

教材化にあたっては、市内のボランティアグループの協力をもらい、方言を取り入れるなど工夫した。紙芝居・DVDについては、市内の幼稚園・保育園、小学校等に配布し活用を促したほか、DVDについては、インターネット上でより多くの人が見ることができるようにした。

v 指宿の写真記録等整理・活用事業（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・タイムマシンフォトクラブ）

◆実施概要

指宿に関する写真、8ミリフィルム等を収集するとともに、指宿市で保有している昭和20～50年代のネガフィルム・ポジフィルム等も含めてデジタル化保存した。また、収集した写真を活用し、市民グループ「タイムマシンフォトクラブ」と共同で写真展を開催するとともに写真集を作成した。写真集については、電子書籍化も行いネット上で公開した。

vi 指宿市内の戦争遺跡アーカイブ化事業（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・指宿ムービープロジェクト）

◆実施概要

市内に残る防空壕や海軍航空基地跡等、第2次大戦の戦跡について情報を収集するとともに、映像として記録した。合わせて、体験者の証言についても可能な限り映像で記録した。映像制作については、市民グループである指宿ムービープロジェクトと共同で実施しDVD化を行った。

vii 指宿まるごとガイドブックジュニア版作成・活用事業

（実施団体 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・教育委員会・市内学校）

◆実施概要

平成24年度ミュージアム活性化支援事業で作成した指宿まるごと博物館ガイドブックをベースに、学校教員、指導主事等と連携しながら、指宿まるごとガイドブックジュニア版を作成した。

2 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

（1）時遊館 COCCO はしむれ友の会活動支援

藍染め体験（1回目 7月20日 参加者：23人、2回目 7月22日 参加者 18人）

内容：博物館前の畑でタデアイを栽培し、それを材料とした藍染め体験を夏休みの家族向け体験学習として友の会が実施。友の会会員が講師となり、参加した家族に指導を行った。

友の会秋の研修旅行（10月25日 参加者：38人）

内容：鹿児島市への研修旅行へ同行し、旧島津氏玉里邸庭園、福昌寺跡、仙巖園の見学案内を行った。

（2）市民講座「まちの宝を知ってみよう」

市の生涯学習事業として実施される市民講座において、講師として協力した。開催実績は下記のとおりである。

	開催日	分野	講師	テーマ	受講生
第1回	5/14	自然	渡部 徹也	指宿の自然Ⅰ	11
第2回	5/28	自然	鎌田 洋昭	指宿の自然Ⅱ	13

第3回	6/11	歴史	渡部 徹也	指宿の歴史（古代）	12
第4回	6/25	歴史	福ヶ迫 忠	指宿の歴史（中世）	10
第5回	7/9	歴史	渡部 徹也	指宿の歴史（近世）	11
第6回	7/23	産業	鎌田 洋昭	指宿の産業（第3次産業）	10
第7回	8/27	産業	渡部 徹也	指宿の産業（第1次産業）	9
第8回	9/10	文化	福ヶ迫 忠	指宿の神社について	10
第9回	9/24	文化	鎌田 洋昭	指宿の文化（郷土芸能・伝統行事）	11

（3）篤姫のひなまつり（平成26年1月18日～3月16日）

NHK大河ドラマ『天璋院篤姫』放映に合わせて始まった、観光かごしま大キャンペーン推進協議会主催の「篤姫ひなまつり」に連携し雛段飾りや土人形の展示を行った。

◆関連イベント「親子でひなまつりを楽しもう！珠雛(たまひな)の絵付け体験」

日時：平成26年3月1日（土）・2日（日）指導者：四元誠氏（琴鳴堂）

（4）展示会の施設利用

■理科作品展（9月13日～9月18日 269人）

■図画作品展（9月5日～9月11日 420人）

■指宿まるごと博物館「そげんじゃったなー指宿の写真展2」（10月26日～11月24日 来場者数：2,027人）

（5）いぶすき検定の実施協力

いぶすき検定の初級・中級の問題作成を行うとともに、直前講習会の講師を務めた。

（6）いぶすき大好き体験事務局への協力

いぶすき大好き体験事務局では、世界でもめずらしい天然砂むしの体験をはじめ、いぶすき広域ならではの自然資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験、自然体験、味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて、博物館で実施している「オリビン採集体験」を川尻海岸等で実施し、「オリビン万華鏡作り体験」「古代人のネックレス作り体験」（石製勾玉作り体験）を館で行うなどの協力を行った。

3 発掘調査・整理作業の部

（1）市内遺跡確認調査

敷領遺跡の確認調査をメインに、開発対応に伴う遺跡の確認調査を実施した。民間開発に伴う調査として迫田遺跡で確認調査を行い、縄文時代晩期後葉～弥生時代早期の遺物が出土した。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物	備考
敷領遺跡	指宿市十町	7月31日～ 8月16日	12㎡	遺跡範囲確認	水田跡	—	火山災害 遺跡
迫田遺跡	指宿市十町 南迫田	4月10日～ 7月12日	251.2 ㎡	保育園舎建設	ピット	縄文土器 弥生土器	
松尾城跡	指宿市字城ヶ 崎	2月4日～2月 6日	—	縄張り図作成	空堀、曲 輪、土塁	—	

4 文化財保護の部

(1) 文化財防火デー（平成27年1月26日）

地域住民、関係機関参加のもと、市指定有形文化財「豊玉媛神社等棟札8点」を保管する豊玉媛神社、及び枚聞神社で防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて理解・協力を求めた。

(2) 指定文化財等の保護

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。

また、市指定有形文化財であるモクヨ山六地藏塔の土留め工事、上野神社供養塔群、河野覚兵衛家墓石群の樹木伐採について補助金を交付した。

5 刊行物・研究活動の部

(1) 「指宿まるごと博物館V 小野民俗学と『薩南民俗』からみた指宿の民俗」展示図録刊行

企画展「指宿まるごと博物館V 小野民俗学と『薩南民俗』からみた指宿の民俗」の内容を紹介した。

(2) 橋牟礼川遺跡報告書

平成3年に実施した指宿駅西部土地区画整備事業に伴う、都市計画道路（10-1線）部分の発掘調査報告書を刊行した。

(3) 平成25年度市内遺跡確認調査報告書刊行

平成25年度に実施した敷領遺跡等の確認調査に伴い、遺跡の記録保存を行った。



ゴールデンウィークイベント



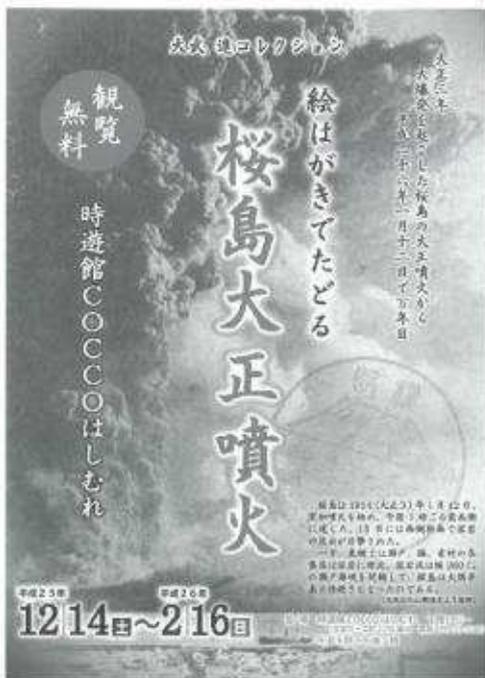
学びのふるさと講座



はしむれ日曜講座



いぶすきシェルコレ2013 体験学習



ミニ企画展「絵はがきてたどる桜島大正噴火」



スターウォッチング



学習支援活動



夏休みイベント「古代にチャレンジ!土器をつくろう」



指宿まるごと博物館構想推進事業
指宿校区秋祭り 地域の歴史・文化パネル展



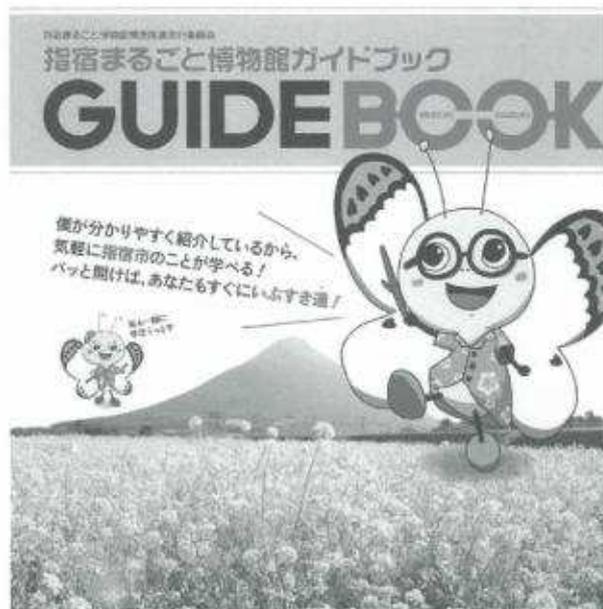
企画展「小野民俗学と『薩南民俗』からみた指宿の民俗」



指宿まるごと博物館構想推進事業
紙芝居「開聞岳はけんか好きか」の一場面



箆姫のひなまつり関連イベント 珠雛絵付け体験



指宿まるごと博物館構想推進事業
指宿まるごとガイドブックジュニア版



市内遺跡確認調査 松尾城跡踏査

平成 26 年度各事業の実施状況

平成 26 年度に実施した主な事業は、次のとおりである。以下、その概要を記す。

1 博物館事業の部

(1) ゴールデンウィークイベント (4月29日～5月6日 体験者 1,014 人)

昔の遊び体験として、けん玉・ビー玉・おはじき・あやとり・めんこ等の体験を実施した。体験学習として、飛び出す塗り絵体験・コロコロ金太郎人形絵付け体験・勾玉作り・あんざん編み・オリビン万華鏡作り・キーホルダー作り等を実施した。

(2) 学びのふるさと講座 (全5回、聴講者数 182 人)

博物館で全5回の講座を開催した。平成 26 年度は国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡国指定化90年に当たるため、橋牟礼川遺跡史跡公園を活用した講座を前半の3回設けた。後半2回については、企画展の内容に合わせて火山をテーマとする講座を設けた。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	5月17日	遺物・遺跡から見る指宿の新しい歴史について	上村 俊雄 (鹿児島大学名誉教授)	49
2	7月12日	鹿児島島の蝶の謎と自然について	福田 晴夫 (鹿児島県昆虫同好会顧問)	40
3	10月18日	指宿の自然を楽しもう	清水 建司 (鹿児島県環境技術協会)	25
4	11月29日	自然災害の歴史と防災について	井村 隆介 (鹿児島大学理学部准教授)	53
5	1月17日	指宿の火山の魅力について	福島 大輔 (桜島ミュージアム理事長)	15

(3) はしむれ学芸員講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、企画展の内容に即した講座を開催した。

	開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
1	12月23日	ワークショップ	開聞岳の噴火の歴史 開聞岳の模型を作ろう	当館学芸員 指宿ジオパーク研究会	20
2	2月7日	指宿の火山巡り	指宿市内の火山を実際に 見学する	当館学芸員 指宿ジオパーク研究会	22

(4) ミニ企画展「ワールドカップ日本代表写真展」(5月20日～6月29日 見学者 1,955 人)

ワールドカップ日本代表選手の指宿最終合宿に合わせて、代表選手23人のほか、活躍した選手6人の写真を展示した。本人のサインと夢についてのコメントとが寄せられている写真パネルデータは、日本サッカー協会の提供である。県内では指宿市のみでの開催である。実施に当たっては、市長公室の協力を得た。

写真展と同時に「夢に力を！2014」を実施。これは、代表選手らが夢について語ったメッセージを読み、子ども達をはじめ、多くの方々が寄せ書き用紙に自分の夢を書き込むことで、夢を力にしてほしいという目的で行ったものである。

写真展の期間中の6月19日(日)には、日本対コートジボワール戦のパブリックビューイングイベントを歴史劇場と講堂で開催した。観戦者数は145人である。

(5) ミニ企画展「いぶすきシェルコレ 2014」(7月12日～8月31日 入場者 2,203人)

指宿で採集された貝、鹿児島湾で採集された貝、志布志湾で採集された貝、奄美大島・沖永良部島で採集された貝、908種1200点を標本化。貝の形でまとめた標本、生息場所でまとめた標本を展示、指宿市内での貝殻の採集ポイントを紹介した。また、県立博物館から大型の貝アラフラ貝とトウカムリ、ウミガメのはく製標本を借用し展示した。

同時開催として、指宿市の海岸に産卵のためやってくるウミガメの生態やウミガメの保護活動を紹介した、ウミガメパネル展を開催した。

いぶすきシェルコレ 2014 に伴って下記の体験学習会を開催した。

①7月12日(土)	貝でかわいい生き物を作ろう!	参加者 22人
②7月26日(土)	夏の光を独り占め! サンキャッチャー作り!	参加者 27人
③8月23日(土)他	貝のジェルキャンドル作り!	参加者 29人
④8月23日(土)	シェルコレ限定! オリビンと星の砂の奇跡のコラボ万華鏡作り!	参加者 32人

(6) ミニ企画展「大武進コレクション 地図で見る鹿児島の移り変わり展」

(10月11日～11月30日 入場者 3,501人)

「紙の文化財」と言われる地図を中心とした展示を行った。「大武文庫」主宰の大武進氏の協力で、「大武文庫」が所蔵する、江戸時代から平成にかけての貴重な地図のコレクションを特設館COCCOはしむれで初めて公開していただいた。

◆展示地図 77点(大武コレクション57点、館所蔵地図16点他)

◆展示構成

- ・江戸時代の地図の世界：江戸時代の地図を紹介
- ・鹿児島県の地図 今昔：明治から平成の地図で鹿児島県の移り変わりを紹介
- ・鉄道地図 今昔：鹿児島線開通直後の地図から九州新幹線までの地図を紹介
- ・史跡案内地図 今昔：指宿まるごと博物館マップを含めた史跡案内地図を紹介
- ・観光案内 今昔：地図やパンフレットで観光の移り変わりを紹介
- ・県都・鹿児島市の移り変わり：市政施行直後から現在までの鹿児島市の移り変わりを紹介
- ・珍しい地図：薩英戦争砲台配置図等珍しい地図を紹介
- ・指宿市の移り変わり：博物館所蔵地図等で明治から現在までの本市の移り変わりを紹介

(7) スターウォッチング

開催日	星座や星の観察内容	講師	参加者
5月17日	春の星座と火星・木星を見よう! ※曇天のため、パソコンソフト星空シミュレーターを用い、 春の星座や木星、土星について紹介	当館学芸員	6
8月3日	夏休みの思い出 夏の星座と土星・火星を見よう!	当館学芸員	雨天中止
10月8日	不思議! 皆既月食を楽しもう!	当館学芸員	121
2月7日	冬の星座と輝く星たちを見よう!	森永成一氏	7

(8) 第25回いぶすきシルバー美術展(8月3日～8月17日 入場者 1,703人)

鹿児島県内在住の60歳以上の方から絵画作品を公募し、一同に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の

場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成2年度から開催しており、今年度で25回を迎える。出展者数131人、170点の作品を展示した。

会期後、フラワーパークかごしまにて巡回展を実施。見学者数は4,247人である。

(9) 学習支援活動

来館者に対する学習支援の他、博物館実習生や職場体験学習の受け入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

・キャリアスタートウィーク

市内の中学2年生を対象とした職場体験学習の受け入れを行った。期間は5月12日(月)～16日(金)であり、受け入れ人数は南指宿中学校生徒2人である。体験メニューとして、勾玉・あんざん編み体験、岩本麓遺跡の発掘調査現場での体験発掘を実施した。

・パワーアップ研修

指宿市立指宿商業高等学校の教職員10年目研修の受け入れを行った。期間は8月18日(月)～19日(火)であり、受け入れ人数は3人である。企画立案実習では、(株)指商の例を参考に、時遊館OOOOはしむれのPR戦略に関して提案をしてもらった。

平成26年度(27年2月末日時点)

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習(記載のない団体は見学のみ)
1	4	14	月	指宿小学校	47	火おこし
2		25	金	柳田小学校	72	ワークシート
3	5	2	金	青戸小学校 1・2年生	35	
4				一倉小学校 2・3・4・5・6年生	21	
5				川尻小学校	11	ワークシート
6		14	水	大和村連合小学校 5・6年生 (大和・名音・大柵・今里)	41	
7		16	金	都城市4校合同小学校 (西岳・御池・夏尾・吉之元)	26	石勾玉
8				菓子野小学校	19	
9		20	火	栗生・八幡・神山3校合同小学校	43	石勾玉
10		22	木	南小学校	71	消しゴム勾玉
11				西小学校	154	
12		23	金	丸野小学校	27	消しゴム勾玉
13				庄内小学校	34	
14		29	木	五十市小学校	119	
15	6	10	火	青戸小学校	19	
16		12	木	丹波小学校 2年生	11	生活科「まちたんけん」(校外学習)
17		17	火	丹波小学校 6年生	105	ワークシート
18		18	水	丹波小学校 4年生	2	夢さがしの旅(職場体験)

19	9	5	金	御陵中学校	24	
20				筑紫野南中学校	41	絵付け
21		10	水	学業院中学校	38	オリビン万華鏡
22		11	木	春日野中学校	80	オリビン万華鏡
23		18	木	平野中学校	83	石勾玉、絵付け、消しゴム勾玉
24				春日南中学校	58	石勾玉、オリビン万華鏡
25		19	金	二日市中学校	83	オリビン万華鏡、石勾玉
26				天拝中学校	35	石勾玉
27		24	水	那珂川南中学校	42	石勾玉
28				大野東中学校	21	オリビン万華鏡
29		26	金	春日中学校	29	オリビン万華鏡
30	10	3	金	知覧小学校	46	
31		10	金	佐伯高等学校	15	オリビン万華鏡
32				今和泉小学校 1・2年生	26	オリビン万華鏡
33				霜出小学校 5・6年生	25	
34				山川小学校 2年生	8	
35		22	水	池田高等学校	52	
36				国見小学校	27	石勾玉
37		23	木	一武小学校	40	
38		29	水	指宿小学校3年生	46	昔の道具(民具)
39				開聞小学校3年生	33	昔の生活と道具
40		31	金	石山・有水合同小学校	29	
41	2	5	木	丹波小学校3年生	28	
42		6	金	丹波小学校3年生	56	

出前授業・出前体験学習、職場体験学習

	月	日	曜日	学校名	人数	内容
1	4	21	月	青戸小学校 6年生	17	火おこし
2		30	水	開聞中学校 1・2・3年生	144	オリビン万華鏡
3	5	21	水	高槻市立第二中学校 ※ 指宿大好き体験	82	オリビン採集
4		25	日	親子キャンプ	52	オリビン採集
5	6	17	火	西指宿中学校	10	
6	7	20	日	仙田地区文化財巡り	40	
7	8	1	金	魚見小学校 2年生	14	石勾玉
8		5	火	川尻マンゴーくらぶ	21	絵付け
9		6	水	魚見校区公民館	46	火おこし、消しゴム勾玉

10	9	3	水	ふれあいミニサロン ※ 田之畑営農センター	16	キーホルダー
11		17	水	ふれあいミニサロン ※ 利永交流センター	17	キーホルダー
12	11	1 2	土 日	プレ国文祭・県民文化フェスタ	32	石勾玉、オリピン万華鏡
13	11	7	金	指宿小学校創立記念	300	講演会
14	12	6	土	子ども会大会	147	オリピン万華鏡
15		18	木	ふれあいミニサロン ※ 上野営農研修館	21	キーホルダー
16	1	11	日	なのはなマラソン	27	石勾玉
17		27	火	柳田小学校3年生	56	昔の道具（民具）
18	2	28	土	中名保育園		珠雛作り

(10) 企画展「指宿まるごと博物館Ⅵ 火山の恵みと黒潮交流

～火山の恵みがいっぱい！ 指宿は火山でできている展～

(平成 26 年 12 月 23 日～平成 27 年 3 月 1 日)

指宿地域にあるすべての火山を紹介し、その火山活動によってできた指宿の大地や、多くの火山の恵みとそれを用いた様々な営みについて紹介するとともに、火山が地域の生活と深く関連し、地域の産業や工業を支え、地域発展の基礎となったこと、そして海を越えた交流についても説明する。

◆展示構成

- ・火山ってなに？
- ・指宿の大地の誕生
- ・旧石器人も縄文人もビックリ！
- ・火山による海岸と港
- ・火山からの恵みと海洋交流
- ・火山の恵みと産業振興

◆関連イベント

企画展に伴い、はしむれ学芸員講座とエネルギー教室を実施した。実施と運営に関しては、指宿ジオパーク研究会と九州電力鹿児島支店の協力を得た。学芸員講座については、1（2）に掲載した。

項目	日時	参加者	内容
エネルギー教室	2月14日	14人	自転車発電体験や、地熱クイズを行い、大切なエネルギーについて学んだ。

(11) 時遊館 COCCO はしむれ PR 活動

時遊館 COCCO はしむれの入館者増のため、市内、市外において PR 活動を実施した。

	日時	場所	内容
1	6月21日	霧島市	市内ホテル・市観光協会・観光課と合同でPR
2	9月17日	鹿屋市役所	市観光協会・観光課と合同。鹿屋市の観光行政・施設従事者に、指宿まるごと博物館の口演を行った
3	9月19日	指宿市内	鹿屋市の観光行政・施設従事者へ現地案内を行った
4	9月20日	霧島市	市内ホテル・市観光協会・観光課と合同でPR
5	10月22日～ 24日	大分県・宮崎県	市観光協会観光キャンペーンへ同行し、旅行代理店等へのPRを実施
6	1月11日	指宿市総合体育館	菜の花マラソン会場でのPR ・石の勾玉作り特設テントを設置
7	1月25日	時遊館 COCCO はしむれ	菜の花マーチでのPR

2 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

(1) 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会への活動支援

平成26年度から28年度の3か年で、指宿市内の郷土芸能・伝統行事の映像記録作成を実施している。平成26年度は下記についての記録に関する支持を行った。

◆郷土芸能

玉利地区：玉利奴踊り、脇集落：脇浦古琴節、上野区：上野猿の子踊り・上野鞆踊り、利永区：利永琉球傘踊り、宮地区：宮坂田踊り、田中集落：田中手拍子踊り、谷村集落：谷村手拍子踊り、下仙田地区：下仙田棒踊り、高野原地区：さまふり

◆伝統行事

鱧地区：トッノモツツイ、浜見ヶ水区：サンコンメ、市内の鬼火焚き

(2) 時遊館 COCCO はしむれ友の会活動支援

藍染め体験（7月22日 参加者：42人）

内容：博物館前の畑でタデアイを栽培し、それを材料とした藍染め体験を夏休みの家族向け体験学習として友の会が実施。友の会会員が講師となり、参加した家族に指導を行った。

友の会秋の研修旅行（10月25日～26日 参加者：33人）

内容：福岡県と佐賀県の研修旅行に同行し、九州国立博物館、大宰府、吉野ヶ里遺跡、唐津城等の見学案内を行った。

(3) 市民講座「まちの宝を知ってみよう」

市の生涯学習事業として実施される市民講座において、講師として協力した。開催実績は下記のとおりである。

	期日	分野	講師	テーマ	受講生
第1回	5/14	火山	鎌田 洋昭	火山の恵みを再認識！指宿の名勝と大地の謎	9
第2回	5/28	歴史	恵島 瑛子	体験！！岩本麓遺跡を発掘してみよう！	12
第3回	6/11	歴史	恵島 瑛子	始まりは指宿から！縄文時代と弥生時代の暮らし	16

第4回	6/25	歴史	福ヶ迫 忠	指宿と石の文化 ～石塔、石仏の世界～	16
第5回	8/27	文化	中摩浩太郎	戦国時代から幕末の外国人がみた指宿	18
第6回	9/10	文化	福ヶ迫 忠	指宿の廃仏毀釈 ～神仏習合の終焉～	14
第7回	9/24	産業	恵島 瑛子	煙草と塩と海運	15
第8回	10/8	経済	中摩浩太郎	指宿文書に見る指宿初の裁判とは！	15
第9回	10/22	文化・産業	鎌田 洋昭	江戸時代のガイドブック『三国名勝図会』とは？	12

(4) 篤姫のひなまつり（平成 27 年 2 月 14 日～3 月 15 日）

場所 時遊館 OOOOO はしむれ 1 階ロビー

内容 雛壇飾り、土人形、婚礼衣装

◆関連イベント「親子でひなまつりを楽しもう！珠雛(たまびな)の給付け体験」

日時：平成27年2月28日（土）・3月1日（日）指導者：四元誠氏（琴鳴寮）

(5) 展示会等の施設利用

教育委員会学校教育課で夏季休業期間における学習会が開催された。その後、市内の児童・生徒の作品展が開催された。

■名付け会（9月10日～9月17日 来場者数：86人）

■理科作品展（9月10日～9月17日 来場者数：262人）

■図画作品展（9月19日～9月24日 来場者数：492人）

(6) いぶすき検定の実施協力

小学校5・6年生と中学校1・2年生を対象とした「いぶすきジュニア検定」と、いぶすき検定の初級・中級・上級の問題作成を行うとともに、直前講習会の講師を務めた。

(7) 指宿市観光協会への協力

指宿市観光協会等が、平成26年10月3日（金）から11月30日（日）の期間に、指宿市と南九州市穎娃地区を舞台にして実施した体験型イベント「きら★旅」へプログラムを提供し、その実施に協力した。プログラム内容は、博物館で行っている「オリビン万華鏡体験」をベースとした、「美しい指宿の海が生んだ火山の宝石 オリビンと星砂・光る砂の万華鏡作り」である。

(8) いぶすき大好き体験事務局への協力

いぶすき大好き体験事務局では、世界でもめずらしい天然砂むしの体験をはじめ、いぶすき広域ならではの自然資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験、自然体験、味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて、博物館で実施している「オリビン採集体験」を川尻海岸等で実施し、「オリビン万華鏡体験」を館で行うなどの協力を行った。

3 発掘調査・整理作業の部

(1) 市内遺跡確認調査

開発対応に伴う遺跡の確認調査を実施した。民間開発に伴う調査として、敷領遺跡南側境界付近で874年の開聞岳噴火の火山災害を受けた建物跡が確認されたことが、特筆すべきことであった。

遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物	備考
敷領遺跡	指宿市十町	8月4日	4.5㎡	遺跡範囲確認	—	成川式系土器	
敷領遺跡	指宿市十町	11月28日～ 12月20日	64.75㎡	民間開発	平地式建物 (カマド他)	土師器・ 須恵器他	火山災害 遺跡
玉利遺跡	指宿市十町	1月7日～ 1月8日		学校施設 建設	—	—	
松尾城跡	指宿市字城 ヶ崎	2月16日～ 2月18日		縄張り図 作成	空堀、曲輪、 土塁		

(2) 橋牟礼川遺跡総括報告書作成

大正7・8年に、京都帝国大学濱田耕作博士が橋牟礼川遺跡で初めて実施した発掘調査、橋牟礼川遺跡北側隣接地で昭和61年度から平成3年度までに行われた指宿駅西部土地区画整理事業に伴う発掘調査等、これまで橋牟礼川遺跡では多数の発掘調査が実施されてきた。それらすべての成果を一冊にまとめ、橋牟礼川遺跡の全容が容易に理解できる総括報告書の作成を実施中である。実施期間は平成26年度～27年度。

平成26年度においては、各時代の遺構図面の整理作業を実施するとともに、京都大学総合博物館に所蔵される大正時代の出土遺物の整理作業と、古墳時代の土器と須恵器、縄文土器の一部の図化作業を実施した。

4 文化財保護の部

(1) 文化財防火デー（平成27年1月25日・26日）

地域住民、関係機関参加のもと、市指定無形民俗文化財利永琉球琴踊りの道具を保管する利永区民センター及び救国神社で、防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて、理解・協力を求めた。

(2) 指定文化財等の保護

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。

県指定指宿光明禅寺の阿彌陀如来立像の修復に関して協力を行った。また、その保存のための台座製作と、垂門地区に所在する豊前殿の説明板設置、開聞十町に所在する瑞応院中興開山舜講の墓の管理のための樹木伐採について、補助金を交付した。

(3) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡古代復元住居の修復

平成26年度において、文化庁の補助事業を得て、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡地内の古代復元住居4棟のうち、傷みのひどい2棟について屋根の葺きなおしを含めた修復事業を実施した。

この事業に合わせて、10月18日（土）に史跡公園において下記のような体験学習会を開催した。

- ・古代住居屋根葺き体験

参加者：28人

内 容：市内の小中学生を対象として、古代住居の屋根葺き体験を実施、合わせて講習会も実施した。

・茅葺き技術講習会

内容：市内の造園業者を対象に、葺き技術の講習会。

・木工クラフト体験（協力：指宿ジオパーク研究会）

参加者：22人

内 容：市内の小中学生を対象として、橋牟礼川遺跡利活用の一環として木でペンダント等の工作体験。

（4）県指定指宿光明禅寺の阿弥陀如来立像の修復

指宿光明禅寺の阿弥陀如来立像は平成 15 年 4 月 22 日に県の有形文化財に指定された。この如来像は良質なヒノキを用いた寄せ木造りで、今から約 800 年前の鎌倉時代初期に慶派によって造られたものである。しかしながら、全体の痛みが激しく修復が急務であったことから、所有者及び鹿児島県と協議を実施した。その結果、所有者が公益財団法人住友財団の助成金申請を行い、事業が認められ、合わせて鹿児島県の助成を得られることになったため、平成 26 年度において保存修復業務が行われた。

保存修復業務は、九州国立博物館において行われ、財団法人美術院が作業を担当した。害虫駆除の薫蒸後、寄せ木のパーツごとに分解され、江戸時代に厚く塗られた赤紫色の塗り物が除去された。また、破損部分は同質のヒノキ材で補充し復元された。今回の修復作業によって得られた主な知見は以下のとおりである。

○仏像は、細かなノミを使い、見えない内部までも丁寧に彫られ、全身が金箔張りであった

○仏像内部は、朱色で塗られているだけでなく、部分的に黒塗りも施されていた

（5）石敢當悉皆調査

指宿市山川町区・福元区には、石敢當が集中して分布している。石敢當は中国が起源とされる石塔である。山川港は、中世においては琉球船、ポルトガル船等が入港する港湾であり、また、江戸時代においては鹿児島藩の藩港として、「琉球口貿易」の唯一の港として位置づけられていた。このような背景から、石敢當は琉球経由でこの地域にもたらされたとされている。平成 26 年度現在の石敢當の実数等に関して悉皆調査を実施した。

日時：平成 26 年 10 月 3 日（金）

場所：指宿市山川（町区・福元区）

※悉皆調査報告は紀要編に掲載した。

5 刊行物・研究活動の部

（1）「指宿まるごと博物館Ⅵ 火山の恵みと黒潮交流」展示図録刊行

企画展「指宿まるごと博物館Ⅵ 火山の恵みと黒潮交流」展示内容を紹介。

（2）平成 26 年度市内遺跡確認調査報告書刊行

平成 26 年度に実施した数領遺跡等の確認調査と本調査に伴い、遺跡の記録保存を行った。

（3）写真集「時の記憶—なつかしの指宿—」の増刷

平成 25 年度に指宿まるごと博物館構想実行委員会が刊行した昔の指宿の写真を集めた写真集を、平成 26 年度当初に市内各所に配布したところ、大きな反響があったことから、販売用として 500 部を増刷した。



ゴールデンウィークイベント



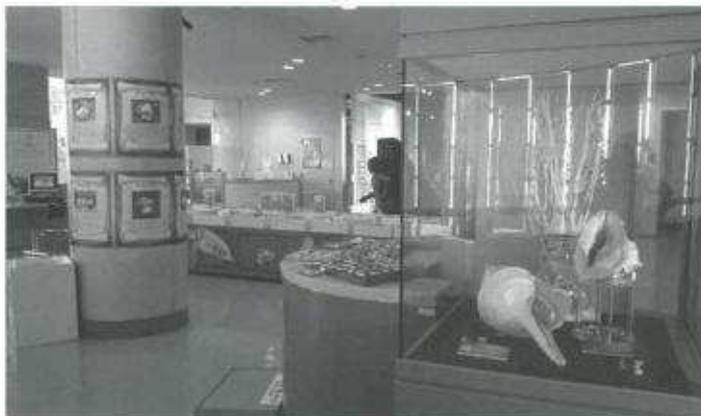
学びのふるさと講座



学芸員講座 指宿の火山巡り



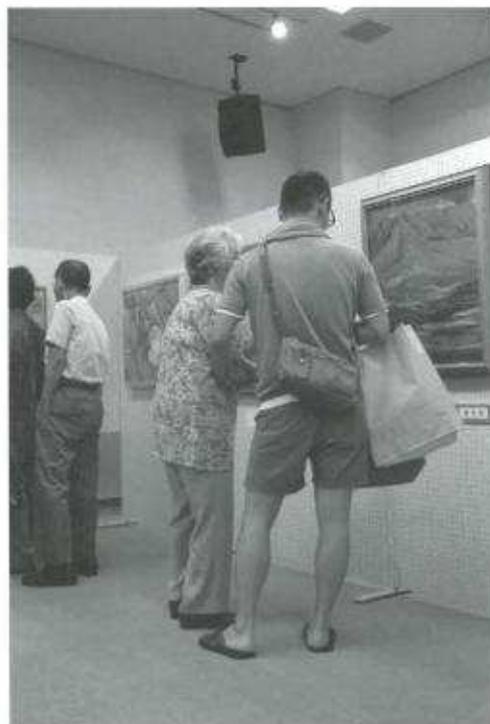
ミニ企画展「大武進コレクション
地図で見る鹿児島島の移り変わり展」



いぶすきシェルコレ 2014



企画展「火山の恵みと黒潮交流」



第25回いぶすきシルバー美術展



郷土芸能映像記録作成事業（さまふり）



時遊館 COCCO はしむれ友の会研修旅行



市民講座「まちの宝を知ってみよう」(発掘体験)



「きら★旅」へのプログラム提供
火山の宝石オリビンと星砂・光る砂の万華鏡



大正時代の橋牟礼川遺跡出土遺物整理作業



文化財防火デー（利永区の歴史講話）



修復された橋牟礼川遺跡古代復元住居



古代住居屋根葺き体験

紀要編

指宿市山川町区・福元区所在の石敢當悉皆調査

指宿市教育委員会 社会教育課文化係

1 石敢當の概要と調査の目的

石敢當は、丁字路の突き当たり等に置かれる、中国を起源とする魔除けの石標である。全国で最も石敢當が多いのは沖縄県であり、1万基を超える。次いで多いのは千余基を数える鹿児島県であるが（小玉 2004）、なかでも山川港の周辺には、石敢當が濃密に分布していることが知られている。この背景には、山川港が中世から国際貿易港として栄え、江戸時代の鎖国下においては薩摩藩で唯一、琉球口貿易の窓口を担っていた港であり、異国の文化が流入する環境にあったことが関係すると考えられる。

今回は、山川町区・福元区を対象に、平成26年度現在の石敢當の実数把握および基礎資料作成を目的として、悉皆調査を行った。

2 調査の方法

山川町区・福元区を4つに分割した調査区を設定し、現地踏査を行った。記録は、写真撮影と調査票記入、地図への位置記入による。調査票の項目は、第1表のとおりである。なお、番号は地区毎に付した（例：1区の1番→1-1）。

3 悉皆調査結果（第1表、第1図、第2図）

- (1)実数：今回の悉皆調査の結果、石敢當数は64基であった。町区・福元区における過去の調査では、2008年の森田氏の報告では53基（森田 2008）、2009年の岡村氏による報告では60基が確認されている。両者の示した分布図と照合したところ、石敢當はここ6、7年の間にも、新たに設置されたり、移動あるいは消失したりすることが確認された。
- (2)銘：石敢當33%、石敢當39%、石敢當1%、石敢當19%である。本来の「敢」ではなく「散」を用いるものが過半数を占める点が興味深い。
- (3)年号：記載があったのは、平成5年と平成9年のみであった。いずれも作成は社会福祉法人 山川福祉会による。
- (4)正面形状：五角形（駒形）81%、長方形9%、丸長方形8%であり、五角形（駒形）のものが多数を占める。
- (5)材質：山川石が94%と大多数を占める。その他には御影石やコンクリートといった材質が用いられているが、なかでも家の門の鉄平石を利用した事例は珍しく、注目される（3-22）。
- (6)法量：高さは最大80cm、最小19cmであり、20cm~50cmに集中する。幅は最大幅33cm、最小幅12cmであり、20cm前後に集中する。高さとの比率をみると、両者はほぼ比例の関係にあり、個体差は少ないようである。
- (7)所在：T字路72%、十字路11%、家の敷地奥5%となった。なお、家の敷地奥としたものも、家の位置は突き当たりである。
- (8)備考：その他、注目されたこととして、供え物をしている事例が確認された。何らかの信仰の対象である可能性が考えられる。

4 石敢當に関する聞き取り調査結果（第2表）

上記の調査結果を指宿市文化財保護審議会にて報告したところ、石敢當が所在する周辺に居住する住民に聞き取り調査を実施してはどうかとの指導をいただいた。これを受けて、家に石敢當を設置している18基分16件について聞き取りを行った。結果は第2表のとおりである。

特筆すべき点について述べると、問5「石敢當に関する言い伝え」の回答からは、石敢當を有する家の多くで、「突き当たりに置く」「魔除け」といった、石敢當本来の意味が伝えられ、認識されていることが明らかとなった。また、問6「石敢當を残している理由」については、回答の3割程度は、「石敢當は神様もしくは氏神であるから」という一種の信仰に基づくものであったが、その他は「昔からあるものだから」といった理由が多くを占めた。

上記のことから、今回の調査では、住民は石敢當に対して強い信仰をもつ訳ではなく、積極的な動機をもって残しているのではないことが確認された。しかしながら、石敢當が世代を越えて残され、現代でも街中に多数存在する状況は、山川町区・福元区にみられる習慣・習俗として注目される。今後は、山川における石敢當の歴史的な位置づけ等も含めた追加調査を実施していきたい。

【引用・参考文献】

岡村利行 2009『山川生まれの石敢當物語』いっど、いっが、山川港の会

小玉正任 2004『民俗信仰 日本の石敢當』慶友社

森田浩司 2008「鹿児島県山川における石敢當の実態調査」『研究紀要』41 pp.71-81 大阪教育大学

第1表 石敢當悉皆調査票

番号	銘	年号	正面形状	材質	色	法量 (cm)	台座有無・法量 (cm)	所在	備考
1-1	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	薄い褐色	高47.0 幅25.0 厚18.0	高11 幅37 厚24	T字路	道路上
1-2	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高36.5 幅20.0 厚15.2	台座無し	T字路	CB塀の上
1-3	石敢當	—	五角形(輪形)	御影石	白色	高29.5 幅17.3 厚14.7	台座無し	T字路	犬走り上
1-4	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高41.3 幅25.7 厚17.5	台座無し	十字路	CB上
1-5	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31.1 幅18.3 厚14.6	高13 幅28.2 厚25.3	T字路	水道メーターの上
1-6	石敢當	—	丸長方形	山川石	薄い褐色	高32(28) 幅11.0 厚11.0	高7.5 幅23 厚23	十字路	
1-7	石敢當	—	丸長方形	山川石	薄い褐色	高35.5 幅17.0 厚13.0	台座無し	T字路	道路上 横に花瓶あり
1-8	石敢當	—	丸長方形	山川石	褐色	高37.0 幅18.2 厚11.5	高16 幅27 厚27	T字路	道路上 横に花瓶あり
1-9	石敢當	—	丸長方形	山川石	黄色	高48.0 幅20.8 厚14.5	高12 幅20.2 厚26	家の敷地奥	花瓶入れる穴あり
1-10	石敢當	—	長方形	山川石	黄色	高30.8 幅12.0 厚10.0	台座無し	T字路	CB上
1-11	石敢當	—	丸長方形	山川石	黄色	高42.1 幅14.6 厚1 ^α	台座無し	T字路	CB塀の中に埋め込み
1-12	石敢口	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高23.6 幅14.0 厚10.3	台座無し	T字路	CB塀埋め込み
1-13	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高36.0 ^α 幅21.0 厚12.5	高9.8 幅26 厚21.8	T字路	
1-14	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高27.7 幅13.3 厚12.2	台座無し	T字路	山川石ブロック塀の上
1-15	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31.0 幅12.8 厚11.0	高12 幅12.5 厚11.3	角	台座に専用の切り込み有
1-16	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高25.0 幅12.8 厚10.5	高11.5 幅21 厚17.5	T字路	
1-17	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高30.0 幅24.8 厚10.2	高10.2 幅22 厚15	家の敷地奥	台座に専用の切り込み有
1-18	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高32.0 幅18.5 厚14.4	台座無し	T字路	家の犬走り
1-19	判読不能	—	長方形	山川石	黄色	高約22.0 幅15.0 厚12.5	台座無し	T字路	地面上
1-20	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高26 幅13 厚9.5	台座2段(高5 幅24 厚22.5)	T字路	道路上
1-21	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高30 幅17 厚10.5	台座無し	家の敷地奥	
1-22	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高32.5 幅19.0 厚14.0	台座無し	T字路	CB塀の上
1-23	石敢當	?	五角形(輪形)	コンクリート	記入なし	高29.0 幅13.0 厚9.0	台座無し	T字路	山川石製塀の上
1-24	石敢當	平成九年一月	五角形(輪形)	山川石	黄色	高32.5 幅23 厚17	高49 幅29 厚23	T字路	CB塀の上
2-1	石敢當	—	長方形	山川石	黄色	高35 幅18 厚17	台座無し	T字路	犬走り上
2-2②	石敢當	平成九年一月	五角形(輪形)	山川石	黄色	高19 幅15 厚10	高40 幅21 厚10	T字路	台座に切り込み有, 犬走り上
2-3	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高30 幅15 厚12	台座無し	T字路	CB塀の上
2-4②	石敢當	平成九年一月	五角形(輪形)	山川石	黄色	高25 幅15 厚9	高38 幅18 厚15	T字路	
2-5	石敢當	—	五角形(輪形)	御影石	灰色	高27 幅14.5 厚9	高38 幅19.5 厚17	T字路	CB塀の上
3-1	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高27 幅15 厚11	台座無し	T字路	CB塀の上
3-2	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高24 幅15 厚11.5	台座有り	T字路	店先の犬走り上
3-3	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高36.5 幅20 厚16.5	台座無し	T字路	ブロック上
3-4	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31 幅15 厚12	台座無し		玄関先
3-5	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高35.5 幅16 厚12.5	台座無し	T字路	CB塀の上
3-6	石口當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高27 幅16.5 厚11	台座無し	T字路	山川石塀に埋め込み
3-7	石敢當	—	五角形(輪形)?	山川石	黄色	高36 幅18.5 厚17	台座無し		CB塀の上
3-8	石敢當	—	長方形	山川石	黄色	高33.5 幅17 厚13	台座無し	十字路	山川石製塀の上
3-9	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高25 幅16.5 厚13.5	台座無し	十字路	山川石製塀の上
3-10	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31 幅15.5 厚11	台座有り	T字路	店先の道路上
3-11	石敢當	—	長方形	山川石	黄色	高39.5 幅24 厚14	台座無し	T字路	道路上
3-12	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高26 幅17.5 厚13.5	台座無し	T字路	CB塀の上
3-13	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高28.5 幅18 厚15	台座有り		玄関先
3-14	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高30 幅14.5 厚10.5	台座有り	T字路	塀の上
3-15	石敢當	—	長方形	山川石	黄色	高60 幅33 厚19	台座無し	T字路	道路上
3-16	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31.5 幅18.5 厚15	台座無し	T字路	CB塀の上
3-17	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高21 幅15 厚11	台座無し	T字路	CB塀の上
3-18	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高28.5 幅15 厚12	台座有り		道路上
3-19	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	薄い褐色	高44.5 幅21 厚13	台座無し	十字路	
3-20	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高35.5 幅21 厚15	台座有り		道路上
3-21	石敢當	?	五角形(輪形)	山川石	黄色	高約40 幅約20 厚約15	台座無し		CB塀の上
3-22	石敢當	—	—	鉄平石	—	高42.5 幅17.5 厚2	台座無し	T字路	門の鉄平石を利用
4-1	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高42.0 幅22.0 厚15.0	台座無し	十字路	山川石製塀の上
4-2	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高31.0 幅12.0 厚11.5	台座無し	T字路	CB塀の上
4-3	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高30.0 幅15.0 厚9.5	高39.5 幅20 厚14.3	T字路	CB塀の上
4-4	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	薄い褐色	高30.5 幅17.5 厚15.0	台座無し	T字路	石製塀の内側
4-5②	石敢當	平成5年9月	五角形(輪形)	山川石	—	高39.0 幅18.0 厚14.3	高48 幅26.5 厚27.1	T字路	
4-6②	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高80.0 幅48 厚26	台座無し	T字路	
4-7	石敢當	?	五角形(輪形)	山川石	黄色	高38 幅20 厚15.5	台座無し	T字路	CB塀の上
4-8	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高28.5 幅18.5 厚13.0	台座無し	T字路	CB塀の上
4-9	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高32 幅15 厚11.5	台座無し	T字路	CB塀の上
4-10	判読不能	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高39.0 幅18 厚15	台座無し	T字路	横向きですべてある, 道路上
4-11	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高35 幅19.5 厚17	台座無し	T字路	CB塀の上
4-12	判読不能	—	その他	山川石	黄色	高27.5 幅14 厚8	台座2段(高10 幅21 厚20)		
4-13	石敢當	—	五角形(輪形)	山川石	黄色	高26.0 幅19.5 厚16.5	台座無し	十字路	CB塀の上

※1 番号横に②をつけたものは、「社会福祉法人 山川福祉会」の銘があったもの

※2 CB=コンクリートブロック

第2表 石敢當に関する聞き取り調査票

聞取番号	年齢 生年	性別	問1 石敢當 の認識	問2 石敢當 の呼名	問3 供え物 の有無	問4 石敢當に お供えをする理由	問5 石敢當の言い伝え 親・祖父母に聞いた話	問6 石敢當を残している理由	問7 石敢當につい ての風習・行 事・習慣	問8 ア074に乗 せている理由
1	45才 S45	女	有	—	有	—	—	神様なのでそのままにしてある	月2回 シバを 供える	守ってくれて いるので
2	78才 S11	男	有	セッカ ントウ	無	—	・台風のときの風 除けのためにある と地元の方から聞 いている ・三叉路に置く	・置いておかないといけない ・昔からあるものは残してい く	特に無し	—
3	79才 S11	女	有	セッカ ントウ	有	・山川がんぼろう 館がピンを持って きたからシバを供 えている（親の代 から） ・続けるのは自分 の気持ち	・突き当たりだか ら置いてある ・あるのが当たり 前	・昔からあったから ・斥神は粗末にはいけな い ・自分で守らないといけない できるところまで守りたい	・毎月1日と 15日は氏神 様と一緒にシ バと塩を交え る ・正月1日 にはシバと塩と 米を供える	—
4	69才 S21	男	有	セッカ ントウ	無	—	昔からの話による と、突き当たりな ので災いが無いよ うに置かれている	・昔からあるのでそのままに している、あるのが当たり前 ・倒れないように接着剤で固 定している	—	—
5	50才 S40	女	有	セキサ ントウ	無	—	・突き当たりにあ る ・100年前く らいからある	・捨てに捨てられずに どうし たらいいかわからない ・花を活けないといけない	特に無し	—
6	73才 S17	女	有	セッカ ントウ	無	—	—	—	—	—
7	76才 S14	男	無（家 は中古 で購 入）	—	—	—	—	—	—	—
8	73才 S17	女	有	セッカ ントウ	無	—	突き当たりの魔よ け	—	—	—
9	54才 S36	女	有	セッカ ントウ	無	—	魔よけ	—	—	—
10	85才 S5	女	有	セッカ ントウ	無	—	突き当たりの魔よ け	魔よけで大事だから	—	—
11	30代	男	有	知らない	無	—	—	元々あったので残している	—	—
12	87才 S2	男	有	セッカ ントウ	無	—	・昔からの習慣 ・突き当たりの石 敢當にあるもので、 中国の言い伝えが あると聞く ・「そこに当って 散る」という考え を教えてもらった	・40年以上前、前のものが古 くなったため、親の代に作り 替えている ・天神坂のがんぼろう館で 作っている ・捨てないのは、昔からある ものだから	—	—
13	94才 T10	女	有	知らない	無	—	—	知らない	—	—
14	67才 S23	男	有	セッカ ントウ	無	—	・魔よけ ・はっきり知らない	—	掃除をしてい る	—
15	77才 S13	女	有	セッカ ントウ	無	—	・石敢當そのもの については聞いて いない ・兄夫婦から聞い た話では、昔あ った地神様はお払い をして除けたが、 石敢當はそのまま にある	・塀を立て直した際、工事屋 さんがちょうどよい所に移し てくれた ・事故が無いように ・今の私が勝手にするのもし うかと考えている	・特に習慣は 無い ・迷信は信じ ないが、縁起 がよい物とは 受け取っている。 暮らしに プラスになる ような心持ち でいる	—
16	85才 S6	女	有	セッカ ントウ	有	・月初めに供える ・家の周りに塩を やるのと一緒に石 敢當にも行う	道の真向いに置く	・守り神だから ・事故があったこともあるか ら	塩と米と酒を 供えるが、石 敢當のみにつ いての習慣は 無い	山川がんぼろ う館が1000 円位で売って くれた

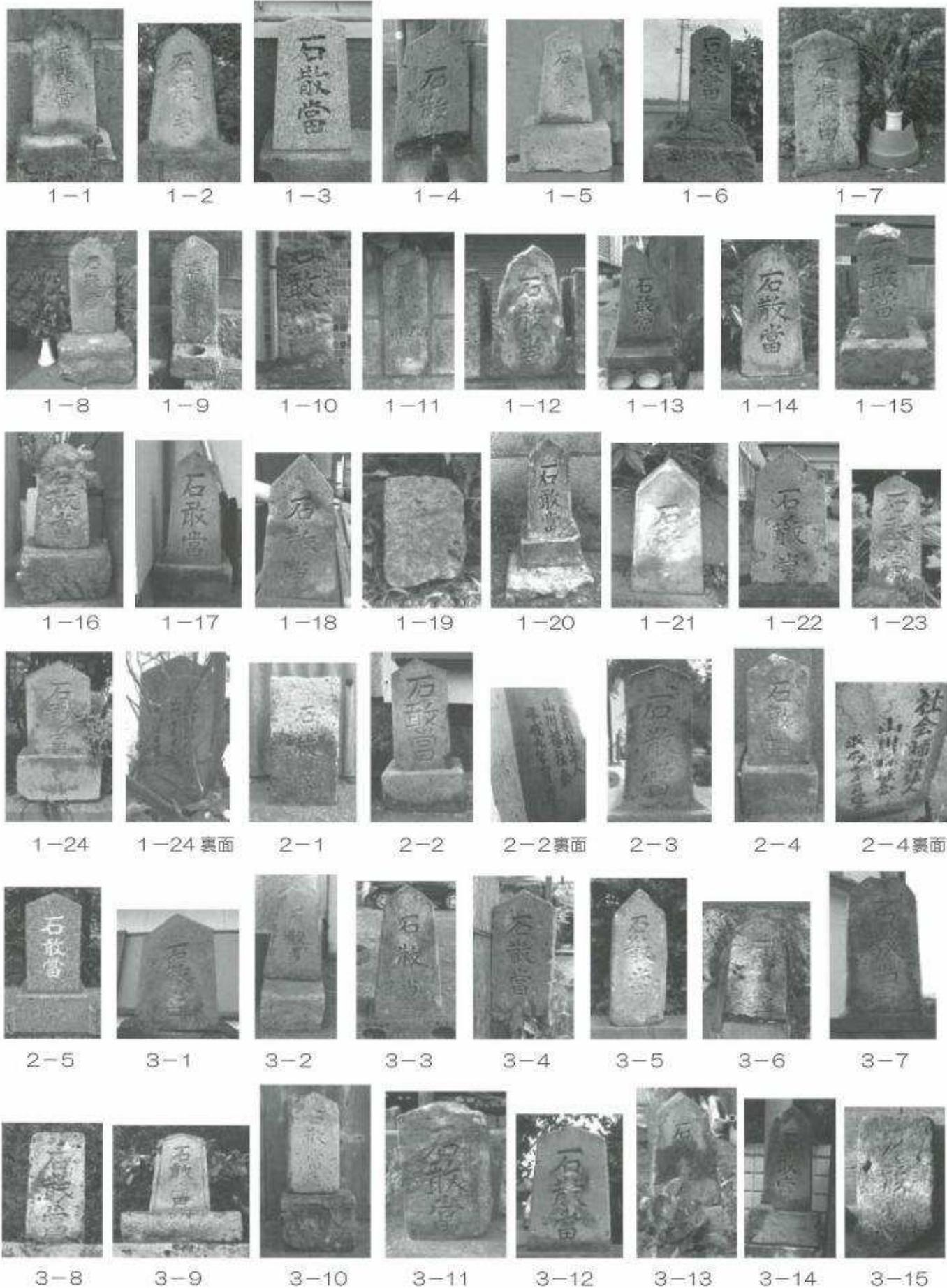


写真1 町区・福元区の石敢當

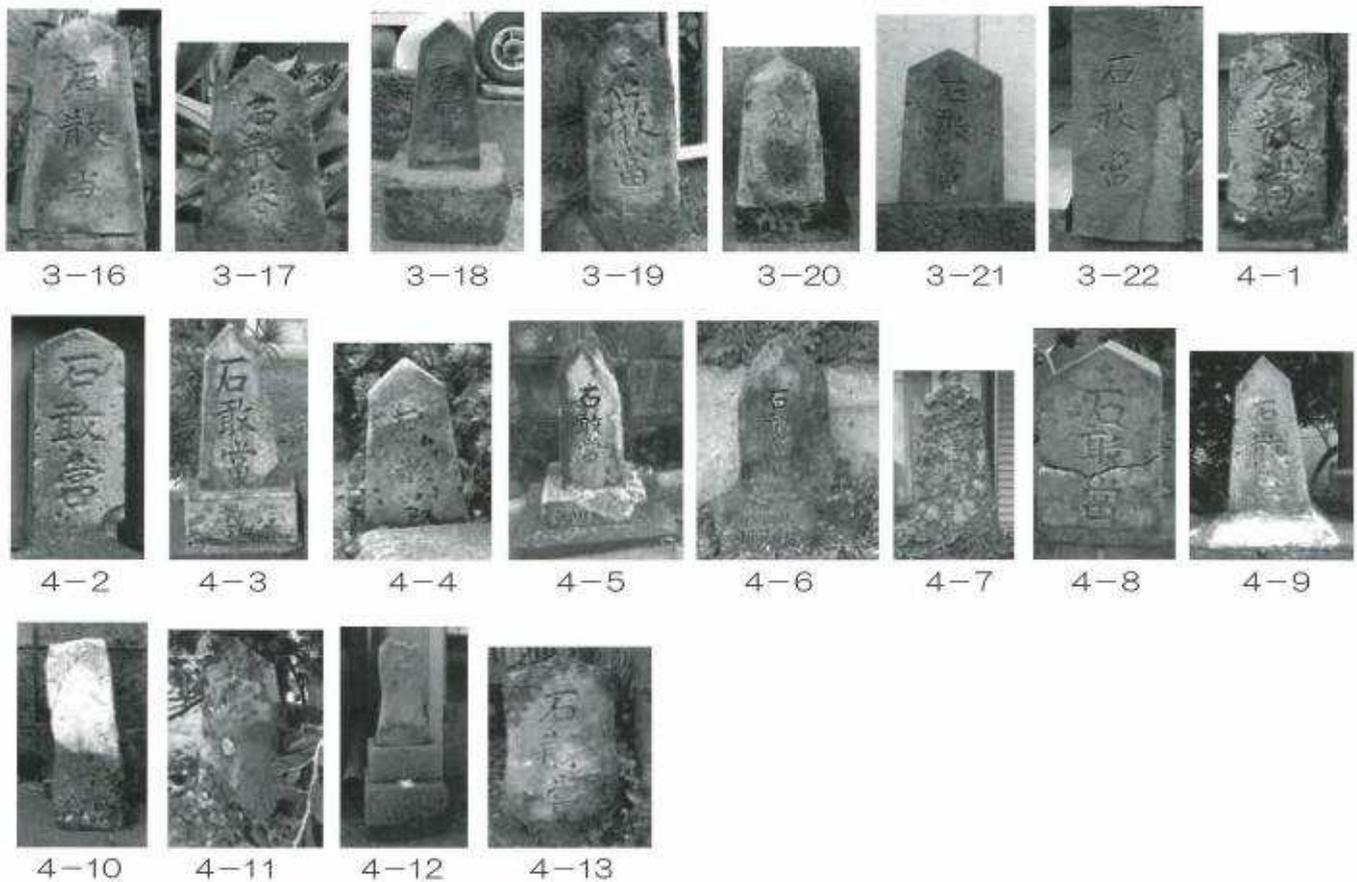
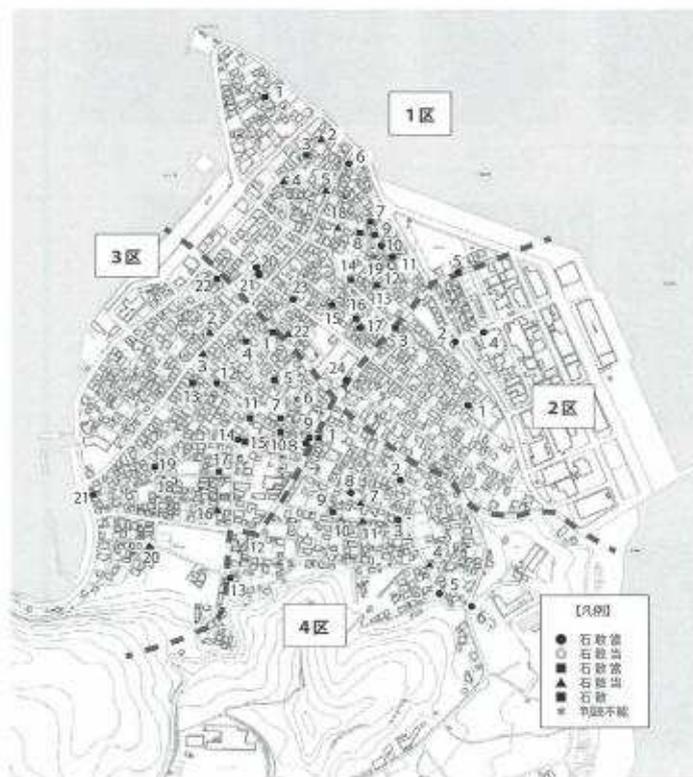
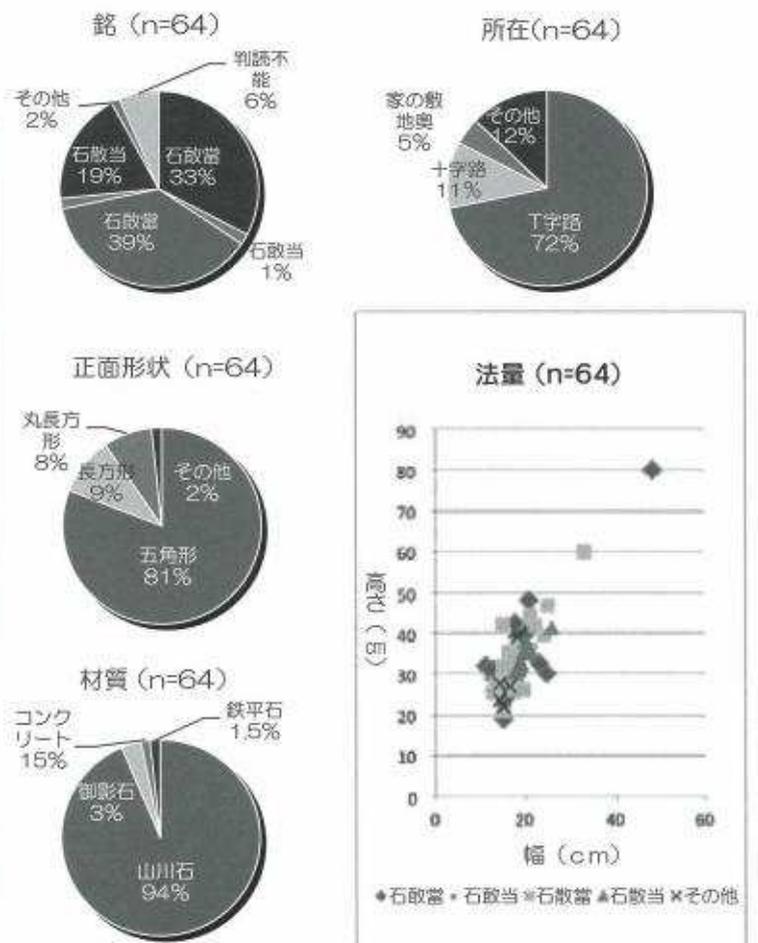


写真2 町区・福元区の石敢當



第1図 町区・福元区の石敢當分布図



第2図 石敢當悉皆調査結果

宮之前遺跡出土の甌形土器

松崎大嗣

はじめに

小稿は指宿市西方に所在する宮之前遺跡から出土した甌形土器（以下、甌）についての紹介と若干の考察を行うものである。

宮之前遺跡では多量の成川式土器が出土しており、甌の器面をミガキ調整で仕上げるといった特徴を持つことから「笹貫式新段階」（中村 2009）に位置づけられる。また、土師器・須恵器の杯身や杯蓋が同一層中から多量に出土していることから、成川式土器の下限を検討する上で有益な情報をもたらしてくれる。しかし、出土量が膨大であるため報告書中では取り上げられていない遺物も多数存在し、宮之前遺跡の性格を明らかにするには、地道な資料の再整理・再検討が必要であると言える。

そのような中、筆者は指宿市教育委員会の方々の援助を受け、宮之前遺跡出土遺物の再整理を行う機会を得た。未だ整理作業は半ばであるが、ここでは新出資料である甌について検討を行いたい。

1 宮之前遺跡の概要

宮之前遺跡は指宿市西方に所在し、宮ヶ浜から西へ続く標高約 20～30m の台地に位置している（図 1）。1980 年に県営畑地帯総合土地改良事業に伴う発掘調査が実施され、翌 1981 年には発掘調査報告書が刊行された（彌栄ほか 1981）。発掘調査地点は計 16 地点に分けられており、その中でも第 5 地点・第 8 地点において多量の土器が出土している。両地点では竪穴住居跡が検出されているが、グリッドごとの取り上げであったため、出土遺物がどの住居に帰属するかは不明である。しかし、出土遺物に記載された注記から、出土地点・出土グリッド・出土層位については復元することが可能となっている。基本層序は、表層の耕作土から最下層の池田湖火山灰までⅦ層が区分されている。ここでは本論に係るⅣ a 層・Ⅳ b 層・Ⅴ層について報告書の記述を参考に説明する。

Ⅳ a 層：固結明紫色火山灰。明紫色～灰紫色を呈するごく細粒の火山灰で、固くなっている。層はブロック状であり、ごく一部のトレンチのみで認められる。厚さは 2～3cm で薄い。

Ⅳ b 層：固結紫色火山礫質火山灰。紫色を呈する火山灰と、5mm 以下の安山岩質火山礫とが、数層のフォールユニット（降下単位）をつくっている。単層の厚さは 5cm 前後である。場所によっては 30cm 位の厚さで、連続しているが、大部分は 10～20cm の厚さでブロック状になっている。この層の中には、竹葉やシダなどの植物片が多量混入している。指宿地方で「紫コラ」と俗称される開聞岳火山噴出物に相当する。

Ⅴ層：含火山礫火山灰質腐植土。火山灰質の層で、径 1cm 以下の亜角礫状の安山岩質火山礫赤褐色スコリアが点在している。黄褐色を呈することが、腐植のため稍黒色



図 1 宮之前遺跡の位置

をしている。場所によっては、この層の上部はとくに濃い黄褐色となっている。遺物包含層。

IV a・IV b層は貞観 16 年（874 年）の開聞岳噴火の一連の堆積物である紫コラ層である。宮之前遺跡から出土する土器の大半はこの紫コラ層直下の第 V 層出土のものである。当遺跡では成川式土器の基本的な器種組成である甕・壺・高杯・甗が揃っており、古墳時代からの伝統的な器種組成が 874 年を下限とする時期まで存続していた可能性がある。また、笹貫式新段階の特徴を備えるミガキを有する甕、パリエーションが豊富な高杯などが多く出土しており、いずれも笹貫式新段階に位置づけられる特徴をもっていると判断でき、時期幅はそれほど大きくないと考えられる。

2 九州南部における甕形土器について

(1) えびの盆地の甕使用方法

甕は、底の部分に 1 個から数個の孔を穿つか、底部を全くの筒抜けに作って簀子などを内側に入れ、蒸して調理する道具、蒸し器としての機能が想定できるものである（外山 1987）。この甕の導入過程については近畿や北部九州で盛んに議論されており、日本における渡来系移民集落の故地を推定する一つの材料ともなっている（寺井 2012・2014）。九州南部ではこれまで甕や竈の出土数は非常に少なく散見のであったため、基本的にこれらの新来の調理技術は受容されていないという考え方が一般的であった（杉井 2004）。しかし、近年の発掘調査の成果からその数は徐々に増加しており（藤井 2012）、新出資料を用いた新たな検討が必要となっている。

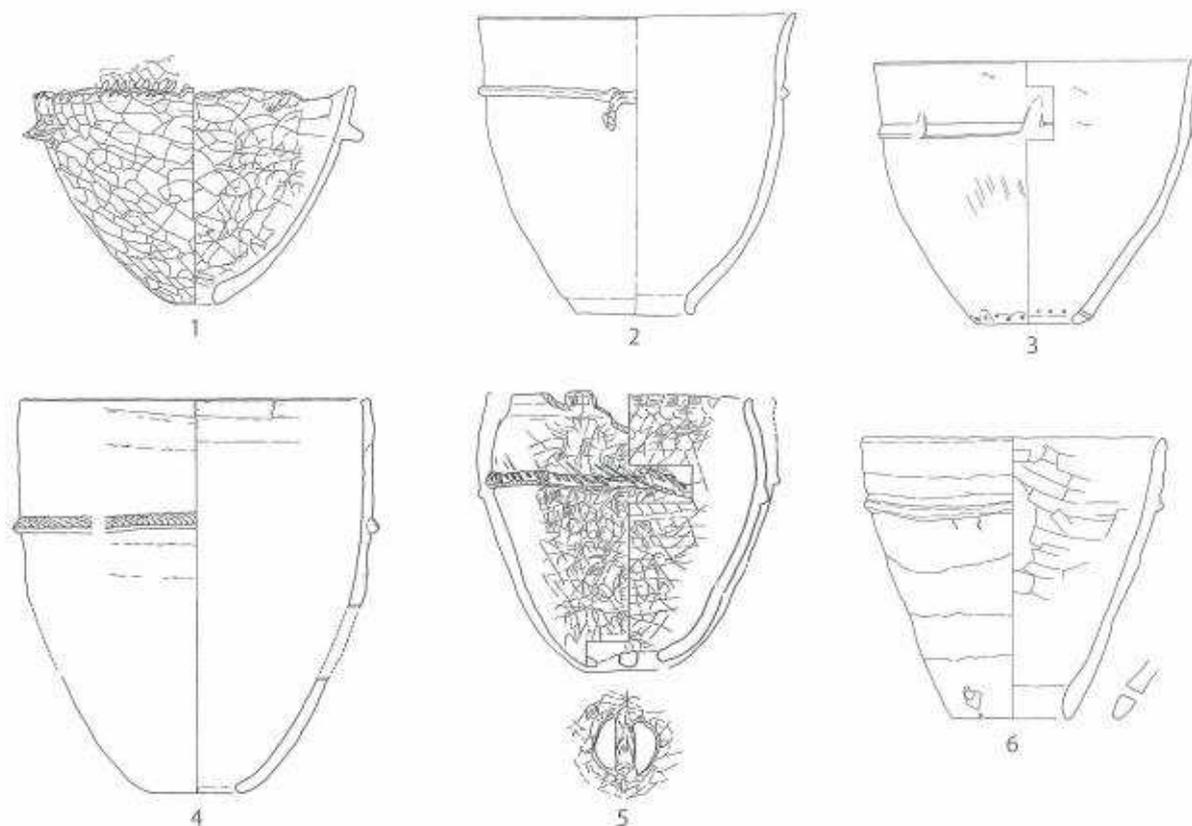


図 1 九州南部出土の甕 (S=1/6)

1: 天神免遺跡 SA28, 2: 中尾遺跡 10 号住居, 3: 中尾遺跡 4 号溝, 4: 上苑 A 遺跡 5 号住居, 5: 天神免遺跡 SA125, 6: 鶴喰遺跡 SA24

筆者は以前、えびの市岡松に所在する天神免遺跡出土の甌を対象に、その使用方法を検討したことがある（松崎 2014）。この天神免遺跡は 200 軒ほどの竪穴住居跡が検出されており、伴出する須恵器から 6 世紀後半から 7 世紀初頭の集落であったことが想定されている（中野 2010）。本遺跡では、多数の甌が出土しており、笹貫式甕通有の貼付突帯を持つ資料も多いことから、これらの甌は搬入品ではなく在地生産であったと考えられる。当遺跡では甌が比較的多く認められるのに対し、造り付け竈などは検出されていない。九州南部以外の地域では竈、長胴甕、甌といったセットで蒸し調理が行われることが一般的であることから、甌をどのように用いて蒸し調理を行ったかが問題となる。

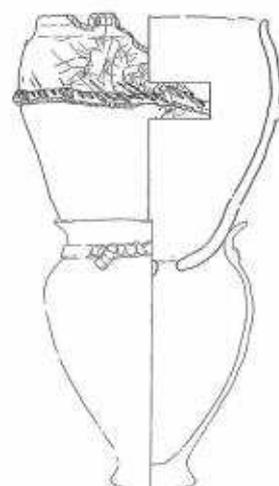


図3 天神免遺跡における甌と甕

そこで甌に付着したスズ・コゲといった使用痕の観察・記録から分析を行った結果、当遺跡では竈を用いず炉と折衷型甕と甌を用いて調理を行っていた可能性が考えられた。また、甌とセットとなる煮沸具として、同時期に九州南部で一般的に使用される笹貫式甕ではなく、屈曲した頸部をもち貼付け突帯を有する折衷型甕の存在を想定している（図3）。

このように、近年は甌の非受容地域として位置づけられてきた九州南部でも甌の情報を受容・生産を行っていたことが徐々に明らかとなってきた。その受容形態に関しても、搬入品を使用するのではなく、えびの盆地や肝付平野では笹貫式甕にみられる貼付突帯を有する甌が出土していることから（図2）、この地域では少なくとも甌の情報が伝達され、在地生産を行っていた可能性が高い。その一方で、薩摩半島では甌の出土数は非常に少ないため、蒸す調理方法がどれほど薩摩半島へ及んでいたのかは明らかではない。その中で、宮ノ前遺跡で甌が検出されていることは、資料の蓄積や今後の検討にとっても有益であると言えよう。

(2) 薩摩半島における甌出土遺跡

薩摩半島では管見の限り、3 遺跡、4 点の甌を確認している（図4）。蒸気孔はいずれもつつぬけタイプであり、全形を確認できる資料は入来遺跡 6 号住居跡出土の資料のみである。

入来遺跡 6 号住居跡（河口 1976）では、共伴する須恵器が TK10 型式であること、笹貫式甕が共伴していることから 6 世紀半ばに位置づけられている（藤井 2012）。形態は胴下半部の屈曲からほぼ直線的に立ち上がり、直口する口縁部をもつ。この資料に加え、入来遺跡では包含層中より甌が 1 点出土しており、全体の形態は把握できないが 6 号住居跡から出土したものと同形であると考えられる。

鹿児島大学構内遺跡では包含層中より 1

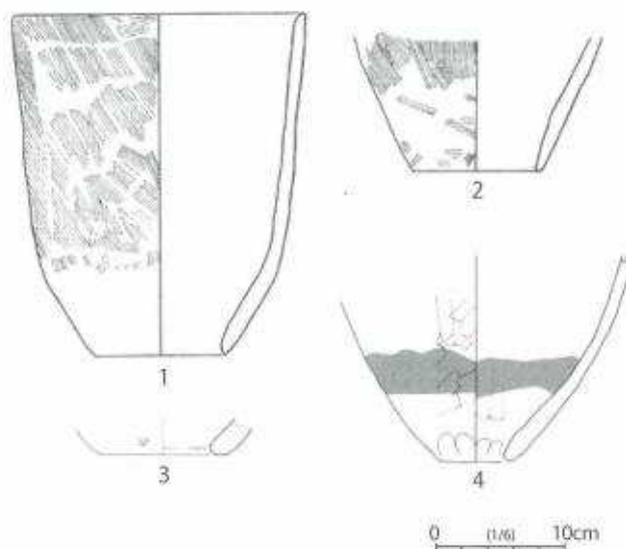


図3 薩摩半島出土の甌

1: 入来 6 号住居, 2: 入来包含層, 3: 鹿大構内包含層, 4: 渡畑包含層

点出土している（寒川ほか 2011）。端部面は丸く取められており、接地面はゆるやかな面をもっている。同一層中からは笹貫式に位置づけられる甕が出土していることから、この時期に帰属するものであると予想される。

渡畑遺跡では包含層中より 1 点出土している（小林ほか 2011）。蒸気孔はつつめけ

タイプであり、ユビオサエによって形成されている。胴部はハケメ調整で仕上げられ、外面にはススガリング状にめくっている。

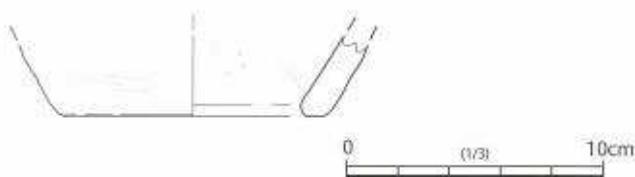


図 5 宮之前遺跡出土の甕

(3) 宮之前遺跡出土の甕

ここでは、宮之前遺跡から出土した甕について検討を行う。本遺跡出土土器の整理作業を行い、すべての遺物に目を通す体系的な整理を行った結果、甕が 1 点確認された（図 5）。破片であるため胴部の形態などは不明であるが、杉井分類（杉井 1994・1996）のつつめけタイプの甕であると考えられる。底部径は約 12cm に復元でき、端部は平坦でゆるやかな面をもつ。内外面共にナデ調整で仕上げられており、内面には一部ミガキ状の調整が認められる。

前述のように筆者はえびの市天神免遺跡の事例から、いわゆる笹貫式甕と甕のセットで調理を行ったのではなく、折衷型甕と甕の組み合わせを想定した。しかし、薩摩半島では折衷型甕の出土は非常に少なく、全体形を把握できる資料も少ないことから、実際の甕の使用方法を想定しがたい。また、宮之前遺跡では折衷型甕に該当する甕は出土しておらず、すべて笹貫式新段階に位置づけられる甕であった。そのため、日常的な煮炊具は笹貫式甕であり、甕の情報が伝達したとしても本遺跡では甕を日常生活の中でどれほどの比重を占めていたかは判断することは難しい。そのような中でも、渡畑遺跡出土の甕には帯状のススが付着していることから、なんらかの形で被熱を受けた可能性が高く、甕を実際に使用したことも想定される。

おわりに

宮ノ前遺跡で確認された甕について位置づけを行ってきた。今後問題となるのは、薩摩半島地域における甕の使用法である。えびの盆地や肝付平野、都城盆地では甕とセットになることが想定される折衷型甕が出土しているが、薩摩半島地域では指宿地域のみで確認されるだけである。渡畑遺跡のようにスス・コゲが帯状に付着している資料も認められることから、今後の資料増加によって再検討を行う必要が考えられる。しかし、薩摩半島における甕は未だその出土数も散見できる程度であり、日常の調理に使用された可能性は低いことが想定される。

以上のように九州南部では、脚台・平底をもつ甕を使用するという共通の地域的枠組みの中で、甕を用いた調理技術・使用方法に地域性がみられる。この地域的な差異が発生する背景については地理的な要因や食物の違いなどが考えられるが、それらの背景に関しては今後の課題としたい。

文献

河口貞徳 1976 「入来遺跡」『鹿児島考古』第 11 号 鹿児島県考古学会 5 - 130 頁

小林晋也・日高勝博・上床真 2011 『渡畑遺跡 2』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (159)

寒川朋枝・松永幸男・中村直子・新里貴之 2011 『釘田遺跡第一地点（鹿児島大学構内遺跡郡元団地 J-4 区）』鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 (6)

- 杉井健 1994 「甗形土器の基礎的研究」『待兼山論叢』第 28 号 大阪大学文学部 31 - 56 頁
- 杉井健 1996 「甗形土器の地域性」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室 10 周年記念論文集』大阪大学考古学研究室 383 - 409 頁
- 外山政子 1987 「甗について—平安時代の甗を中心にして—」『研究紀要』第 4 号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 67 - 85 頁
- 寺井誠 2012 「長原・八尾南遺跡出土の甗の系譜」『大阪歴史博物館研究紀要』第 10 号 大阪市文化財協会 19 - 39 頁
- 寺井誠 2014 「甗の観察点—長原遺跡で出土した古墳時代中期の資料の検討を基に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第 12 号 大阪市文化財協会 17 - 29 頁
- 中野和浩 2010 『北岡松地区遺跡群』えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書 (48) えびの市教育委員会
- 中村直子 2009 「7・8 世紀の成川式土器」『南の縄文・地域文化論考—新東晃—代表還暦記念論文集—』中巻 119 - 128 頁
- 藤井大祐 2012 「大隅・薩摩の諸勢力と対外交渉」『第 15 回九州前方後円墳研究会北九州大会発表要旨・資料集 沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』九州前方後円墳研究会 575 - 593 頁
- 松崎大嗣 2014 「九州南部における甗形土器の受容過程」『平成 26 年度九州考古学会総会研究発表資料集』九州考古学会 28 - 36 頁
- 彌栄久志・中島哲郎・成尾英仁 1981 『宮之前遺跡』指宿市埋蔵文化財調査報告書 (5)

指宿市考古博物館
時遊館 COCCO はしむれ
平成 25・26 年度
博物館年報・紀要

平成 27 年 3 月発行

発行：指宿市考古博物館
指宿市十二町 2 2 9 0

TEL 0993-23-5100 FAX 0993-23-5000

印刷

株式会社イースト朝日
鹿児島県鹿児島市南栄 3 丁目 30-7